

第3学年進路・人権学習 道徳デザイン案

1. 主題 差別をなくそうとする生き方に学ぶ

～ 統一応募用紙制定(就職差別撤廃運動)への取り組みを通して～

2. 目標

- ・「統一応募用紙」の取り組みと出会い、被差別の人々の差別への闘いと、たくましい生き方に共感する。
- ・自分の進路も含めた生き方と結びつけて考え、これからの差別をなくそうとする生き方につなげていく。

3. 学習時間(計①②時間)

第①時職業選びのポイント～社用紙から就職差別を見抜く～
(第②時「統一応募用紙」への取り組み)

4. 指導案(第1時)

目標: 従来の「社用紙」の内容を確認し、その問題点や差別性に気づく。

0. 道徳教科書を使って、社会参画・公共の精神、社会正義について学ぶ。 1. 自分自身の現在の進路に関わる取り組みを振り返る。 2. 自分が会社の入社試験を受けるときに、自分の何をみてもらいたいかについて考えていく。 3. 「社用紙」の内容を書いてみる。 気がついたことを発表する。 4. 「社用紙」の問題点について話し合う。 ・問題のあると感じる項目や必要ないと思われる項目に印をつける。 ・印をつけた理由を考え発表し合うなかで、「社用紙」の問題点の共通理解を深めていく。 6. どのような項目のある社用紙で、就職試験を受けたいか考えを出し合う。	・これまでの進路学習の取り組みを振り返らせると共に、その先に就きたいと今考えている仕事を想像させる。 ・「実際に入社試験を受けるとすると、自分の何をみて欲しいですか。」と問い、それぞれの生徒の考えを出させたい。 ・生徒からは、「やる気」「根気強さ」など、自分の能力や意欲・関心、適正などについての意見が出されられると思われる。《適性と能力》 ・「入社試験に使われていた応募用紙です。何か気がついたことはありますか。」と尋ねながら社用紙(社用紙とは就職時の応募用紙のことで、企業が独自に様式を定めていた)を配布し気がついたことを出し合わせたい。 ・それらのつぶやきを基に社用紙のなかの差別性について話し合わせていきたい。 ・また、社用紙のなかの差別性を見抜けない生徒には、この先差別を受ける危険性があることにも気づかせたい。 ・「住居区分」などの分かりにくい言葉については、その都度説明していきたい。
--	--

	・「どのような項目のある社用紙で、就職試験を受けたいか。」と問い、自分たちのクラスで社用紙を作るつもりで、必要な項目と必要でない項目を出させてそ生徒からは、「誰か分からないといけないから名前は必要である。」「連絡先は必要だから住所や電話番号は必要だけど、本籍の欄はいらない。」「何を会社でやりたいのか、どうして入社したいのか、やる気を判断したいので、動機を書くところは必要だと思う。」 - といった考えなどが出されるだろう。
7. 統一応募用紙の取り組みについて知る。	「適性と能力」以外が、選考の基準になっているのは差別、不利益があってはいけないので、応募用紙を統一しようという取り組みがうまれました。」と、統一応募用紙の取り組みについて紹介。 ・「社用紙」には問題があったことを確認させる。 ・2015年度改訂「統一応募用紙」とワークシート②を配布し、従来の社用紙や自分たちが考えた社用紙との違いについて気づかせる。
8. 現在使用されている「統一応募用紙」を見て、従来の社用紙や自分たちで考えた社用紙との違いについて出し合い、その特徴を掴む。	・生徒から意見が出されてくるなかで、「本人の能力・意欲・関心・適正が採用の基準となるように作られていること」「本人以外に関わる欄がないこと」「志望動機の記入欄が大きいこと」などに着目させたい。 ・資料（調整中）を読み、統一応募用紙が作られるようになった過程について理解させたい。そのときに、「統一応募用紙は被差別部落の人々の運動から始まり、多くの高校生や教師が運動して実ったこと」、それにより「すべての高校卒業生に対して公平な採用を保障することになったこと」を押さえたい。
9. 「統一応募用紙」が作られた過程を知る。	
10. 面接で、親の仕事などがきかれたら？どうするか？	・不適切質問に答えられない力をつけさせる ＊ <u>高校入試での受け応えを指導する</u>
11. 友だちの意見を聞いて、気づいたことや考えたこと、感じたことをワークシートに記入する。	・発表させて、考えを交流させたい。